

## 平成30年度第6回府中市子ども・子育て審議会 議事録

▽日 時 平成31年1月8日（火） 午後2時～

▽会 場 府中市役所 北庁舎3階 第6会議室

▽出席者 委員側 平田副会長、宮前委員、山崎委員、二瓶委員、臼井委員、植松委員、久保委員、木下委員、栗原委員、林委員、高橋委員、田中委員、仲委員、中田委員、畑山委員、木嶋委員、牧野放課後部会長（17名）

事務局側 沼尻子ども家庭部長、二村子育て支援課子ども政策担当主幹、市ノ川子育て支援課主幹、柳下保育支援課長、吉本保育支援課長補佐、古塩児童青少年課長、松本児童青少年課長補佐、藤川児童青少年課青少年係長、三宅児童青少年課放課後児童係長、横道健康推進課長、向山障害者福祉課長補佐兼生活係長、若山子育て支援課推進係長、隅内子育て支援課推進係職員、河野子育て支援課推進係職員（14名）

株式会社浜銀総合研究所、株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所

▽欠席者 汐見会長、酒井委員、堀越委員、墓田委員（4名）

▽傍聴者 なし

### 【次第1 開会】

#### 事務局

皆様こんにちは。委員の皆様におかれましては、お忙しい中、本審議会にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。本日、会長が急遽ご欠席ということになりました。つきましては副会長に議事を進めていただくこととなりますので、ご承知おきください。

また、本日は、放課後対策部会から会長に答申をいただく予定でしたが、それも副会長にいただく形になります。その為に、部会長にお越しいただいておりますので、ご挨拶を頂戴したいと存じます。よろしく願いいたします。

#### 部会長

皆様、こんにちは。府中市子ども・子育て審議会放課後対策部会で部会長を仰せつかりました。普段は、白梅学園大学で、社会福祉士の養成やスクールソーシャルワーカーの育成を務めております。後ほど、部会で取りまとめた答申について、ご報告させていただきますのでよろしくお願い申し上げます。

#### 事務局

部会長ありがとうございました。それでは、ただいまより平成30年度第6回府中市子ども・子育て審議会を開催いたします。まず、資料の確認をさせていただきます。

(※事務局 資料確認)

では、続きまして事務局より2点ご報告をさせていただきます。1点目、本日の委員の出欠状況

についてです。本日欠席のご連絡をいただいている委員につきましては、汐見会長、酒井委員、堀越委員、藁田委員の4名でございます。遅れている委員もいらっしゃいますが、本日の会には委員20名の内、現時点で15名の委員にお集まりいただいておりますので、府中市子ども・子育て審議会条例第8条第2項に基づき、有効に成立することをご報告させていただきます。

2点目、本日の審議会の傍聴についてです。府中市付属機関等の会議の公開に関する規則により、12月21日号の「広報ふちゅう」及び市のホームページで募集をいたしました。応募はございませんでしたのでご承知おきください。

事務局からの連絡事項は以上となります。それではこれから議題に移らせていただきます。皆様のお手元に資料20として配布させていただいております「府中市における放課後子ども総合プランの推進について」の答申を部会長から副会長にお渡しいただきたいと思います。恐れ入りますが、副会長席の前にお進みいただけますでしょうか。

(※答申の伝達)

ありがとうございました。それではここからの進行につきましては、副会長にお願いしたいと存じます。発言する際のマイクの使用についてご協力をお願いいたします。それでは副会長、よろしくお願いいたします。

## 【次第2 議題(1) 答申「府中市における放課後子ども総合プランの推進について」】

### 副会長

皆さん、あけましておめでとうございます。私が司会進行をすることになりました。活発な意見を伺いつつ順調に進められればと思います。ご協力をお願いいたします。

部会長から答申書をいただきました。早速ですがご報告いただければと思います。よろしくお願いいたします。

### 部会長

それでは、「府中市における放課後子ども総合プランの推進について」の答申につきまして、ご報告させていただきます。

はじめに、部会の活動状況でございますが、まず、委員構成につきましては、公募による市民の方が2名、普段から地域でご活躍の青少年対策地区委員の方が1名、小学校の校長先生が1名、放課後子ども教室事業関係者の方が1名、学識経験者の合計6名で構成されています。会議につきましては、昨年の7月から12月までの間、短いスケジュールではありましたが、精力的に5回を開催し、府中市の放課後対策事業の現状や課題を把握するとともに、今後の取組について、活発な議論を行いました。

それでは、答申書の内容について、ご報告させていただきます。

(※部会長説明 資料20 「府中市における放課後子ども総合プランの推進について」(答申))

## 副会長

この答申書については、会長と私が市長にお渡しする形を後日取らせていただきます。今ご報告をいただきましたが、既に議論を尽くしてご報告をいただいているものですから、この会議で議論をすることではないですが、何かご質問がございましたらお受けいたしますので、よろしく願いいたします。

それでは私から1点。指導員の不足、人件費の問題等で各地でご苦労されているようですが、基準があるから賃金は上げられないという事情があるということですが、どうやったら集まるのでしょうか。

## 部会長

部会で色々話をしていまして、給与水準を上げることによって人員を確保しようということも一つの案として出ましたが、市による規定、非常勤職員、嘱託職員の給与水準等が決まっているため、早急に上げられるものではないこと、さらに最近共働き世帯の増加に伴って学童クラブのニーズが高まっていることもあり、人手不足はどの自治体にも起きていることが現状であることがわかってきました。解決策にすぐに結びつくものがなく、今回の場合は開館時間の延長もあり、より人手不足になってしまふ。一つの方向性として、民間活力の活用、つまり外部委託も一つの選択肢としてあるというのが専門部会での一つの結論としてあげられました。

## 副会長

私は幼稚園をやっています。東京の府中市以外の幼稚園では学童保育の委託を結構、幼稚園が受けているそうです。それも視野に入れないと、と感じております。府中市から人員不足について何かありますか。

## 事務局

今部会長からお話があったとおり、本市の学童クラブ指導員におきましては、正規職員及び嘱託職員という身分で勤務しているところです。賃金は公務員なので決まっており、弾力性がない状況となっております。民間活力の導入について、民間事業者の賃金の弾力性も期待する中で安定的な学童クラブの運営につなげていければという思いが事務局サイドにもございましたし、部会のご審議の中でもご議論いただきましたところです。また答申をいただいた中で、市としての方向性を定めていければと思います。

## 副会長

ちなみに学童クラブに関わる方の時給はいくらくらいですか。大まかでいいんですが。というのも以前は学童クラブの先生は結構人気があり、民間のアルバイトよりもよかったんですよ。でも民間の最低賃金が上がったので、学童クラブの賃金の割安感があると聞くんですが、いかがでしょうか。

## 事務局

まず、学童クラブでお勤めいただいている臨時職員の方の時給は東京都の最低賃金と同等です。保育士の資格や教員の免許を有する方についてはプラスアルファの時給を付けさせていただいております。正規職員においては、府中市の職員ですので、定められた給料体系に伴い給料が支払われている状況でございます。嘱託職員については時給ではなく月額報酬という形で、それぞれの勤務年数等々によって定められているところでございます。

## 副会長

他にございますか。部会長はその後ご予約があるとのことですので、ここで退席をさせていただきます。部会長、ありがとうございました。

### 【次第2 議題(2) 答申(案)「府中市子どもの未来応援基本方針(仮称)」について】

## 副会長

それでは「議題(2) 答申(案)「府中市子どもの未来応援基本方針(仮称)」について」事務局から説明をお願いします。

## 事務局

(※事務局説明 資料21 「府中市子どもの未来応援基本方針(仮称)」案(答申))

## 株式会社浜銀総合研究所

(※説明 参考資料 「府中市子どもの生活実態調査 調査報告書」(案))

## 副会長

事務局からご説明いただきました。ご質問等お受けいたしますが、これに関しては以前皆様に色々ご議論をいただきましたので、どうしても修正したい部分を絞ってご指摘いただきたい。その旨ご承知おきの上でご意見、ご質問等ございましたら、よろしくお願いたします。

今、事務局より伝達があり、資料21の表紙をご覧ください。「府中市こどもの未来応援基本方針(仮称)」となっております。来週に答申を出したいのですが、この表題で良いかということです。いかがでしょうか。

## 委員

ここに書かれているので良いとは思いますが、もう少しインパクトがあっても良いかなとも思います。でもこれでも、期待できるような感じはします。

## 副会長

もっとインパクトのあるような案があればいいですが。いかがでしょうか。

## 委員

私事ですが、結婚式に恩師を招待しまして、恩師のスピーチが「ぼくは応援団だ」とおっしゃってくれたことを思い出して、「応援」という言葉はすごくいいと思うので、「こどもの未来の応援」はいいと思います。

## 副会長

男性としては、どうでしょうか。

## 委員

私もいいと思います。こどもの未来応援基本方針というのは、全ての計画の上位にあるものと理解してよろしいですか。子ども子育て支援計画等の上位の方針と理解しておりますが、そういう意味で区別してあっていいと思います。

## 副会長

事務局から、上位等について説明をお願いします。

## 事務局

市における全ての計画の最上位計画は、府中市総合計画になっております。今回の基本方針は、考え方をまとめました方針です。子どもの貧困対策や支援をする考え方をまとめた方針ということで、計画とは若干位置づけが異なり、横に置かれている位置づけです。この方針の考え方にに基づき、それぞれの個別計画にこの考え方を反映していただくための、考え方の方針という位置づけになっております。

## 副会長

ありがとうございました。皆様ご意見はよろしいでしょうか。表題についてですが、概ね良いがインパクトがということですが、その辺りも汐見会長と事務局とご相談をされたうえで、皆様のお気持ちを反映し検討させていただくこととします。それでは表題も含めて、確定ということで、会長と私で市長に答申として然るべき時期にお渡しするというご承知おきいただければと思います。

## 事務局

事務局より1点説明させていただきます。資料22「府中市子ども・子育て審議会からの答申について(案)」、諮問事項の2、3ということで、ただいまご審議いただきました、「府中市子ども未来応援基本方針の策定について」、諮問事項3「府中市における放課後子ども総合プランの推進について」こちらの鏡文をつけた形で市長へ答申していただく形になります。大変恐縮ではございますが、日付が平成30年となっておりますが、平成31年の誤りです。大変失礼いたしました。

## 【次第2 議題(3) 府中市子ども・子育て支援に関する市民意向調査実施状況報告(速報)】

## 副会長

ありがとうございました。続きまして、議題(3) 府中市子ども・子育て支援に関する市民意向調査実施状況報告(速報)について事務局より説明をお願いします。

## 事務局

(※事務局説明)

## 平田副会長

ありがとうございました。今速報値ということで、資料が出てきました。増えてきたら数値も変わってくるということですが、傾向としては速報で出ております。ご意見、ご質問等ございましたら、お願いいたします。事務局からの補足ですが、時間があまりないので、持ち帰ってご質問がありましたら、

後日でもお受けするとのことですので。

## 事務局

補足の説明で資料23(3)「今後の集計・分析について」です。今回2回目の調査ということもあり、基本的には前回と同じような集計を行っていくこととなります。この分析方法ですが、今回のアンケート調査で得られた結果のどこを使って、どのように分析していくかについて、少し補足の説明をさせていただきたいと思います。

## 株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所

補足の説明につきましてはジャパン総合研究所より説明いたします。今日は調査票がお手元にないと思うので、少し説明が難しいところがございますが、単純集計表の別添①をご覧ください。

この調査は他の行政が行うのと違うのは、この調査票の結果をもとに量化して数値を図る調査になります。単にどれがどういう傾向だったかでなく、その解答の率を国が定める算式に基づいて数値化して、それに色々な係数をかけ合わせて、計画書に載っている各事業の量の見込み、いわゆる需要量を出していきます。それに対して、各市町村がその需要量に対して、どういう供給量を出してプラスマイナスするか、今後5年間でどのように行っていくかを考えていくかの初歩の材料になります。

数字を出す上で最初に行うのは、人口推計です。0歳～5歳、小学生も対象でしたので11歳、国政調査の区分でいうと、年少人口である14歳、ここまでの男女1歳刻みの人口推計を行います。これが上限になりますので、今後どれくらいの子どもたちがいて、その子ども達のために何をやらないといけないかという作業になります。

次にアンケートから出されている数量についてですが、数量を出す前に、それぞれのご家庭、保護者の方がご回答いただいた結果をもとに、家庭累計、家庭の型というのを固定します。これが全部で16個くらいある、非常に細かい累計です。この家庭累計が分母になります。この家庭累計についてですが、別添①の問8就労状況について細かく聞いていると思います。ひとり親であるかどうか、お父さんお母さんがいらっしゃるかどうか、それぞれが就労しているかどうか、就労はフルタイムか、パートタイムなのか、働いていないのであれば、就労意向を尋ねる質問もあったと思います。就労意向を尋ねた場合、あるかないのか、あるのであればフルタイムなのか、パートタイムなのか等、非常に細かいフローチャートがあり、それに基づいて分母となり、アンケートの対象者数を市の人口で割ります。家庭累計でどれくらいの方がいらっしゃるかを出していく形になります。

先ほど事務局からお話がありましたとおり、日本全体で母親あるいは父親が就労する方、現在就労されている方、就労を希望される方の割合が増えてきております。分母の部分が前回の5年前と変わりますので、その先に出てくる数字も大きく変わってくる可能性があるということになります。5年前の状況と単純に比較できない部分もあると思います。

分母をある程度出したら、各事業量と各事業量のニーズの数値と掛け合わせていき、各事業の量の見込みを出していきます。国から示されている算式が細かくて説明しづらいのですが、15ページ問21(D)でご説明します。現在年間を通して、「利用している保育のサービスは何か」、「保育のサービス以外だと何を利用していますか」という細かい設問があります。それぞれの利用の日数、時間を記述でご回答いただく設問でした。まさに量を聞いております。ここで現在、利用しているのは何かを聞きながら、33ページの間22では、「現在利用している、利用していないにかかわらず」ということで、潜在的な意向をお尋ねしています。まさにニーズを聞いています。この様な組み合わせの仕方がこの調査票の中では

沢山あります。現在どうか、今後どうか。現在こうだったら、今後はどうしたいか等、就学前には沢山あります。これをもって、利用意向を算出しています。回答して頂いた日数や時間を補正かけていき、各事業の利用量や事業量を機械的に出していきます。ただし5年前もそうでしたが、アンケートを回答する方は利用できるだけ利用したいという方もおられて、1週間中、1週間利用したい、24時間利用可能であれば、帰宅するまでの8、9時まで利用したいと書かれる方もいらっしゃるって、量で出される見込みが非常に高く出される場合があります。なので、機械的に出した結果を現実的な数字を出す作業も必要になってきます。それについては、このアンケート調査だけでなく、実態をご存知である皆様のご意見やこの5年間で市が把握している各事業の実績を比較して、乖離している異常な数値について慣らしていく作業が必要になってきます。市側で、我々事業者側で、そして会議の中で、皆様で実態について、必要なことについて、定義の内容について修正して行って、適切な見込まれる量を算出していく作業を9、10月まで続く形になります。この量の見込みはこの会議、府中市の中だけで完結せずに、東京都、最終的には所管の内閣府に出す数字になります。

私が今口頭で説明しましたが、口頭ではわかりづらかったと思います。どの設問をどの事業の算出に使うのかについては改めてご提示したいと思いますが、このような予定があると事前に説明させていただきました。また、お時間あるときに、今の計画書の各事業の量の見込みを算出しているページがあり、基本的にはそこに書かれている事業を今回も出していくことになりますので、事前にご覧いただきたいと思います。複雑なものについては、その都度ご質問・ご意見等々をいただければと思っております。

単純集計は4種類ありますが、量の見込みで一番使うのは就学前です。小学生は極端に言いますと、使うのは放課後クラブくらいです。若者は量の見込みは関係ありません。ひとり親は補正で使っていきます。それぞれ4種類の調査票で役割が大きく違ってきますが、メインは就学前の量の見込みの算出となってきます。改めてその都度説明してまいります。今私が説明させていただいた内容を頭に入れていただきますと、幸いです。以上です。

## 副会長

ありがとうございました。他にご質問、ご意見いかがでしょうか。先ほど申し上げましたとおり後日も結構ですということですので、この議題は終了させていただきます。議題はすべて終了いたしました。事務局から連絡があればお願いします。

## 事務局

それでは、事務局より連絡事項をお伝えさせていただきます。1点目ですが、本日の審議会の会議録につきましては、事務局で作成し、後日、委員の皆様にご確認の依頼をさせていただきますので、よろしくお願いたします。

2点目ですが、次回、本年度最後の審議会となりますが、3月4日(月)の開催を予定しております。時間については改めて開催通知を送付させていただきますので、よろしくお願いいたします。

事務局からは以上でございます。

## 副会長

ご質問はございますでしょうか。先ほど平成25年度調査との差異を見ながら、随分世の中変わっているなという実感をお持ちになられた方も多いと思います。日本で初めてノーベル賞をいただいた湯川秀樹博士の自伝を読みましたら、ハイハイすると本にぶつかるほど、家の中に本が積んであったとあり

ました。やはりノーベル賞を取られる方は大したものだなと思いました。これは何を表しているかという、環境によって子供の可能性は広がりを持つということだと思います。逆に言うと、貧困は子供の今後の可能性がどんどん狭まってしまいう状態と言い換えることができると思います。子ども達が貧困で選べる道が少ない、もしくは選べないという状況がないように、良いものが出来ればと考えつつ、ご意見が無いようでしたら、全て終了いたします。ご協力ありがとうございました。